

## 【根室市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）では、「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」としている。これらを実現するために、教育DXは必要不可欠であり、国が目指す姿を根室市教育委員会と学校で共通理解を図る必要がある。

各学校においては、ICT環境の充実や教員のICT活用指導力の向上など、ハード・ソフト・人材を一体とした環境整備を進め、教科指導等においてICT機器を適切に活用し、学習への興味・関心を高めることや、障がいのある子どもなどの特性に合わせた支援を行うなどして、教育の質を向上させ、子どもたちの情報活用能力の育成を図っている。

上記内容を踏まえて、児童生徒が急激に変化する予測困難な時代に持続可能社会の創り手となることができるよう、その資質と能力を育成する学びを目指す。

#### 2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に第1期公立学校情報機器整備費補助金を活用し、1632台(児童生徒用)を購入し、同年度に教師用端末200台と、ケース、タッチペン等の周辺機器や大型提示装置としてテレビモニタを整備。8月には、GIGAスクールサポーター（GIGAスクール運営支援センター）を配置し、学びの保障をするため、教職員及び児童生徒のICT機器活用のサポートを行ってきた。令和2年度から令和4年度にかけては主にハード面の整備を行い、令和5年度にソフト整備として、デジタル教科書や、AI学習教材、プログラミング教材等の導入を行った。

GIGAスクール構想の実現に向けたこれらの整備や取組により、教職員、児童生徒にとって1人1台端末はいつでも・どこでも・自由に使える存在となり、端末を使った調べ事、作品作り、グループ学習や情報共有が日常となるほか、児童生徒の特性に合った活動により、表現方法の幅も広がり授業も活発になっている。

しかしながら、ICTの活用が日常的になるに従い、スマートフォン、SNS等によるトラブルや、長時間利用による生活リズムの乱れ等、ハード面では国のGIGAスクール構想を基本に整備を進めてきたところであるが、回線の混雑等による通信速度の問題が課題となっている。

そのため、セキュリティ強化としての有償フィルタリングソフトの導入や、情報教育用端末等のガイドラインの見直しを検討する必要がある。また、各学校が文部科学省より設定されている「当面の推奨帯域」を満たすようネットワーク整備計画を進めていく。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

上記「1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」「2. GIGA 第1期の総括」を踏まえ、「教育DXに係る当面のKPI」における「1人1台端末の積極的活用に向けた目標」「個別最適・協働的な学びの充実に向けた目標」及び「学びの保障に向けた目標」を念頭に置き、以下の方策を講じる。

端末の利活用の前提として、GIGA第2期の端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。

・「根室市立学校における学習活動の視点から見た情報活用能力一覧」を踏まえ、効果的なICTの活用を指導計画に位置付けるよう促すとともに、高等学校を見据え、小学校等から中学校等までの9年間を見通した情報活用能力の育成を図る。

・小学校等の各教科等や中学校等の技術・家庭（技術分野）におけるプログラミング教育を通じて、児童生徒の論理的思考力を育むとともに、問題の発見、解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する資質・能力の向上を図る。

・ネット上のいじめやトラブルを防止するために、ネットパトロールによるネット上のトラブルの早期発見、早期対応のほか、児童生徒や教員、保護者を対象とした、小学校等段階から児童生徒の発達段階に則した情報モラルに関する指導資料を作成及び周知するとともに、国の「e-ネットキャラバン10」活用を促進するなどして情報モラルの充実を図る。

・保護者の責務として、自らの教育方針及び児童生徒の発達の段階に応じ、その保護する児童生徒について、インターネットの利用の状況を適切に把握するとともに、インターネットの利用を適切に管理し、インターネットを適切に活用する能力の習得の促進に努めることを積極的に周知する。

・道教委ICT活用ポータルサイトに掲載されているICTを活用した授業指針、校内研修プラン、授業改善の事例等を各学校に周知し、活用することで、教科等横断的な視点に立った教育課程の編成や授業改善の推進を図るとともに、学校訪問等により各学校の課題に応じた指導助言を行う。

・児童生徒一人ひとりの興味・関心等を踏まえて、きめ細かく指導・支援するなど、1人1台端末並びにAI学習ドリル等を積極的に活用し、発達の段階に応じて、全ての子どもの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

・平常時における持ち帰り学習を引き続き実施し、家庭での学びを授業に結び付ける新しい学習サイクルを充実させ、教員が教え込む授業から児童生徒が主体的に学ぶ授業に転換を図る。